

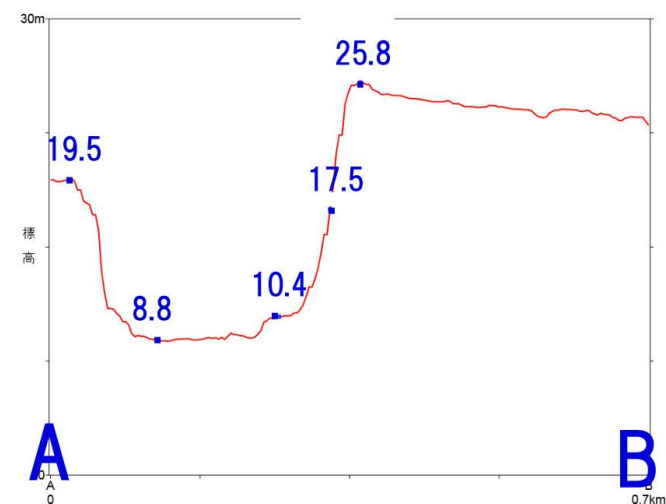
## 「晩秋の小石川植物園 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

小石川植物園は、武蔵野台地と東京低地（浸食谷）の境目の段丘崖に位置している。段丘の高さの差を「比高」と呼ぶが、小石川植物園付近ではどの程度あるのだろうか？

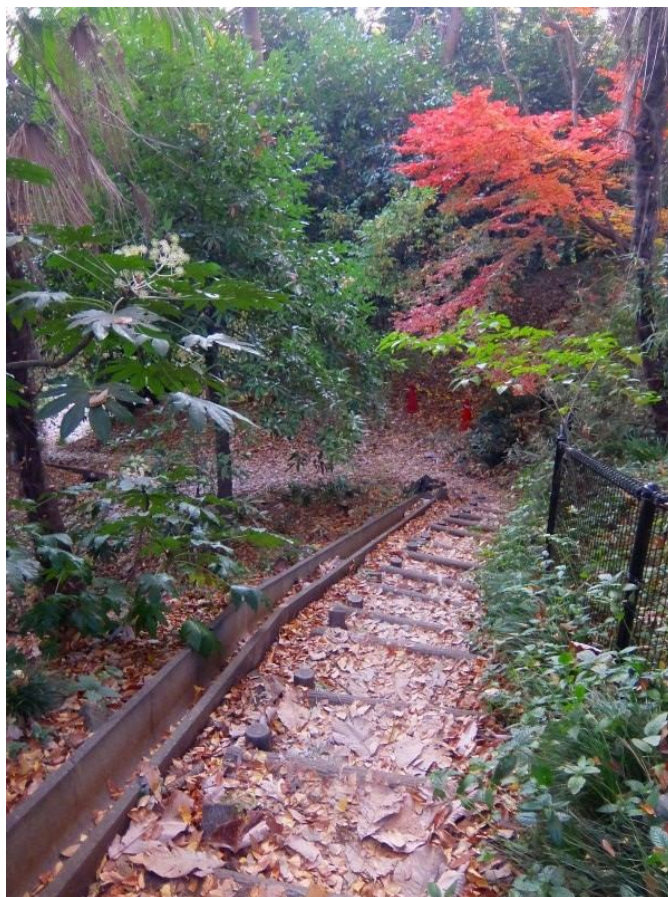


上図のA-B線上の、標高分布図を作成してみた。この作業は埼玉大学の作成したプログラムをもとに、田中が作図したものである。

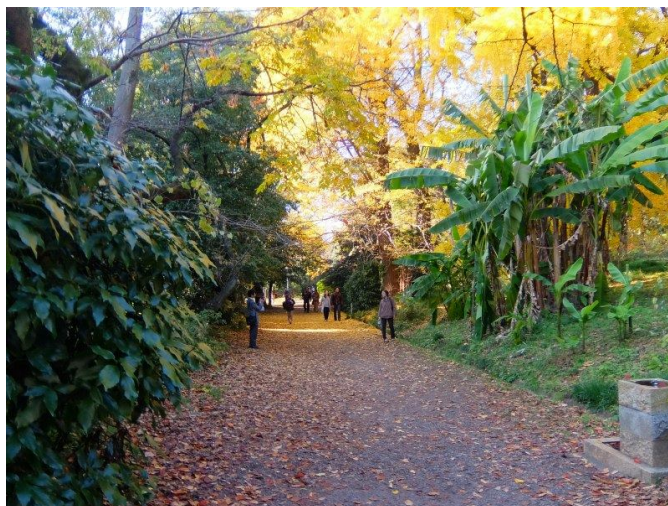


上図がその標高分布図である。水平（横軸）に対して垂直（縦軸）を強調しているため、現実の地形より、相当急に表現されている。段丘崖上（武蔵野台地）の最高標高点は25.8m、崖下（低地）の最低標高点は8.8mである。比高は17mである。これは都内に存在する

単一の段丘崖としては比較的規模の大きいものと言える。実際にA-B上の坂を登ってみると、土の崖ということもあり、直登が困難なほど急な斜面とわかる。



上写真はA-B線上に近い場所の斜面である（台地側から低地側を見た様子）。かなり急な斜面で、道は斜面に対して斜めに切っているのだが、階段も設置しないと、普通の靴では徒歩の通行も難しい。



写真は、正門を入ってすぐ左手の道である。この道は非常に平坦で、小石川植物園では最も標高が低いところ（標高9m前後）に位置している。このまま直進すると、段丘崖の湧水によってできた池を中心とした日本庭園がある。